

# 公正、自由、透明な取引の実践

日本ガイシグループは、「門戸開放」「共存共栄」「社会的協調」を調達の基本方針として、サプライチェーンを構成する調達パートナーの皆さまとともに公正、公平な取引に努めています。

## 基本的な考え方

日本ガイシグループは、調達パートナーの皆さまと公正・公平な取引を行い、ともに繁栄を図るため、「購買基本方針」を定めています。

### サプライチェーン管理体制

第1次取引先であるサプライヤーの管理は、資材部で行っています。さらに、第2次取引先以降のサプライチェーンの管理は、原材料メーカーなどの重要な購買品に限定して行っています。全てのサプライヤーの管理は、取引先管理規定に基づき、実施しています。

参考ページ

> 調達パートナーとのコミュニケーション活動

P127

### 購買基本方針

#### 門戸開放 (Open & Fair)

- オープンで公正かつ公平な調達
- 競争原理と経済性の追求

#### 共存共栄 (Partnership)

- サプライヤーとの相互信頼に基づく相互繁栄

#### 社会的協調 (Relationship with Society)

- 法の順守
- 地球環境の保護

### 購買ハンドブックの周知徹底

購買は会社の資産・生産・開発・業績などに直結する行為であり、かつ、外部との接触、金銭に直接関る業務という面でコンプライアンスにも密接に関係します。このため、購買に関する社内ルールをまとめた「購買ハンドブック」を2007年度に発行し、その後も毎年1回定期的に見直しを実施するとともに、周知徹底にも取り組んでいます。

「購買ハンドブック」の内容は社内イントラネットに掲載し、全社で閲覧可能となっています。新任基幹職研修などの社内研修でも、その趣旨を啓発する教育を実施しています。

今後も、取引先企業などの取り組みを確認し、社会的な動向を踏まえながら、取引先とともにCSR調達を維持・継続し、さらなる質の向上を目指します。



## CSR調達推進

サプライチェーンにおけるCSRへの配慮が、社会的要請として高まっていることを受け、日本ガイシグループではCSR調達を推進しています。取引先企業については、CSRの取り組みを積極的に行っている企業を優先的に選定しており、調達する原材料や利用するサービスについても、CSRに配慮されたものを採用しています。

### CSR調達ガイドライン

日本ガイシグループは海外グループも含めたCSR調達を進めるため、2010年度にグループ全体を包括する「CSR調達ガイドライン」を制定しました。このガイドラインの中で、自らの社会的責任を明らかにするとともに、取引先の皆さまに果たしていただきたい社会的責任についても明示しました。2013年には、環境負荷の低い製品・サービスを優先的に購入する「グリーン調達ガイドライン」を統合。社会的状況の変化を踏まえ、紛争鉱物、贈収賄、人権・労働の原則を追加しています。

日本ガイシグループの「CSR調達ガイドライン」は、日本語・英語・中国語版でWebサイトで公開しています。

#### 参考URL

> CSR調達ガイドラインと補足資料  
<http://http://www.ngk.co.jp/info/procure/>

### 責任ある資源、原材料調達

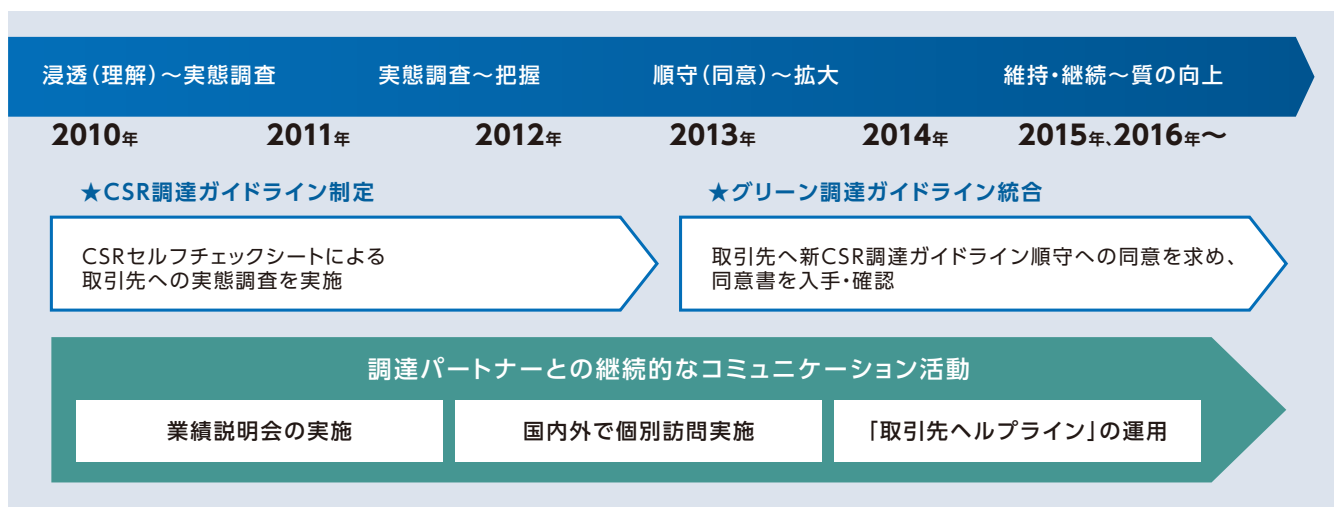
人権侵害や貧困などの社会問題を引き起こす原因となり得る原材料(例、紛争鉱物: コンゴ民主共和国と隣接諸国から産出されるスズ、タンタル、タングステン、金の4種鉱物で、かつ同地域の武装勢力の資金源となっている鉱物)の使用による地域社会への影響を考慮した調達活動を行うものとし、懸念のある場合には使用回避に向けた施策を行っています。

### CSR調達の改善

日本ガイシグループはCSR調達を推進するため、取引先への個別訪問や実態調査を含む理解の浸透活動に取り組んでいます。新規取引先を含め、取引先企業には「CSR調達ガイドライン」順守についての同意書の提出を求めています。2016年度からは、毎年同意を取り直す仕組みに改善し、CSR調達のさらなる浸透や対象の拡大を図っています。

今後とも、取引先企業などの取り組みを確認し、社会的な動向を踏まえながら、取引先とともにCSR調達を維持・継続し、さらなる質の向上を目指します。

### CSR調達の継続的な推進



## 海外グループ会社の調達力強化

### 海外グループ会社従業員向けバイヤー研修を開催

日本ガイシは、海外グループ会社の調達力の強化と担当者のスキルアップを目的として、調達担当者を対象としたバイヤー研修を実施しています。2016年度は、資材部の従業員が講師としてNGKセラミックスインドネシアへ赴き、直接指導を行いました。研修参加者は調達のノウハウや取引先の管理など、調達活動を効率的に進めるための知識を学びました。

### 海外グループ会社購買連絡会を開催

日本ガイシは5月と10月に、NGKセラミックUSAとNGKセラミックメキシコの購買連絡会を開催。両社のバイヤーが各々の購買・物流活動における課題やコストダウン事例を紹介しました。

この連絡会により、両社のさらなる購買活動の促進と、バイヤーの購買知識向上を図ることができました。

## 公正・公平な調達パートナー評価とリソースの複数化徹底

日本ガイシは、購買基本方針にのっとり、公正・公平な評価で調達パートナーを選定しています。さらに、調達リソースの複数化により、災害などの際の調達の確保を図っています。

### 公正・公平な評価に基づく取引先の選定

日本ガイシは、取引実績がない企業にも広く調達の門戸を開放しています。

新規取引先の選定にあたっては、複数の企業から、QCD(品質、コスト、納期)に加え、財務状況や環境保全をはじめとしたCSRへの取り組みなどを公正・公平に評価して、最適な取引先を選定しています。また、取引先選定に関わる評価は、調達部門だけでなく必ず複数部門が実施し、多段階層の承認を得た上で決定する仕組みを整えることで、評価・決定の公正・公平性の確保に努めています。

### 調達リソースの複数化によるBCP(事業継続計画)を推進

万一、大災害などの不測の事態が発生した際にも調達が滞らないよう、原料、設備、副資材などの重要な購買品については、BCPの一環として取引先の複数化と見直しを進めています。取引先が1社の場合は備蓄を確保し、保管場所については津波被害も考慮した安全な地域へ順次変更しています。また、新規調達先の選定に際しては、複数拠点の有無や在庫確保への努力などを考慮しています。